

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年11月13日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0170502496		
法人名	有限会社 時館		
事業所名	グループホーム あいある石山		
所在地	札幌市南区石山2条4丁目1-50 (電話)011-299-8071		
評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	平成21年11月9日	評価確定日	平成21年11月20日

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「グループホーム あいある石山」は周囲に木立が茂り、自然に恵まれた環境に立地している。利用者は隣接しているお寺の境内を散歩し、そこで行われる町内会の夏祭りを楽しんでいる。また、町内会や地域の行事にも参加し、地域住民との交流が得られている。運営者、管理者は法人内の研修を充実させ、ケアの面でも利用者が安心して過ごせる環境づくりに力を注ぎ、理念や介護指針を全員で作り、その実現に向けて取り組んでいる。法人内の食事検討委員会では利用者の好みを入れて季節の料理を提供できるように配慮している。職員間のコミュニケーションも良く、利用者のお話をしっかり受け止め、笑顔で接しながら一人ひとりの思いを叶えるように対応している。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価で取り上げた課題は、実現が可能な所から積極的に見直されている。取り組みを継続している項目、また、内容を深めて今後に期待できる項目なども残されているが前向きに捉え検討している。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価はミーティングで項目ごとに話し合い、それらの意見を管理者とホーム長でまとめた。職員は自己評価の項目内容について難しいと受け止めている。今後は求められている内容を理解し実際のケアに役立つよう実施の方法を検討したいと考えている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議には利用者も参加し、3ヶ月の間隔に向けて努力している。ホームの行事や今後の取り組み、利用者の状況、避難訓練の結果などを報告する一方、会議で出された意見を取り上げホームでお茶会を開いた。家族の参加率が低いので、年間のテーマを決めて事前に案内するなど参加への働きかけと内容の充実を考えている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	毎月「あいある石山通信」を郵送し、行事や誕生会などの写真を載せて暮らしの様子を報告している。家族に無記名のアンケート調査を郵送で実施し、結果を会議で話し合い、運営推進会議にも報告した。家族の来訪時に話しやすいように対応し、意見などがあつた場合は、代表、職員間で内容を共有し運営に反映させている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会の新年会、敬老会、お祭りなどの年間行事、また地域の文化祭に積極的に参加している。中、高校生の吹奏楽や運動会に招待され、児童会館から訪問があるなど子供たちとの交流を楽しみにしている。地域の花植えやゴミ拾いを手伝うなど身近な交流もある。

## 【情報提供票より】( 21年 10月 29日事業所記入 )

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年 2月 12日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	21 人	常勤 11人、非常勤 10人、常勤換算	14.5人

### (2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	1~2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000、45,000、60,000円	その他の経費(月額)	光熱水費:16,000円 暖房費(11~3月):10,000円	
敷金	有(家賃1ヶ月分)円			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(家賃1ヶ月分) 無	有りの場合償却の有無	有(期間:1年以上)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,400	円

### (4) 利用者の概要(10月29日現在)

利用者人数	18名	男性	3名	女性	15名
要介護1	3名	要介護2	6名		
要介護3	3名	要介護4	4名		
要介護5	1名	要支援2	1名		
年齢	平均 82.1歳	最低	62歳	最高	96歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	小笠原クリニック札幌病院 医療法人社団 響(内科・歯科)
---------	------------------------------

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初の理念を見直し、利用者個々の生活を尊重し、自分らしく笑顔で安心して暮らせる環境を作り、地域に根差した温かい福祉社会の実現という理念を、代表と職員が話し合い全員で新たに作り上げた。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念と介護指針は職員の目に留まりやすい場所に掲げ意識化を図っている。ミーティングでは利用者が安心して暮らせる環境になっているかを確認し、また職員は対応が困難な時には理念に立ち返り対応を見直すようにしている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会の新年会、敬老会、お祭りなどの年間行事や地域の文化祭などに積極的に参加している。中、高校生の吹奏楽や運動会に招待されたり、児童会館から訪問があるなど子供たちとの交流を楽しみにしている。地域の花植えや散歩中にゴミ拾いをして身近な交流に努力している。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価はミーティングで項目ごとに話し合い、それらの意見を管理者とホーム長でまとめた。職員は自己評価の項目内容について難しいと受け止めている。今後は求められている内容を理解し実際のケアに役立つよう実施の方法を検討したいと考えている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議には利用者も参加し、3ヶ月の間隔に向けて努力している。ホームの行事や今後の取り組み、利用者の状況、避難訓練の結果などを報告する一方、会議で出された意見を取り上げホームでお茶会を開き楽しんだ。地域包括支援センターからの情報提供や意見を参考にサービス向上に活かしている。</p>		<p>家族の参加率が低いので、年間のテーマを決めて事前に案内するなど、参加への働きかけと内容の充実に向けての取り組みに期待したい。</p>
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市・区のグループホーム管理者会議にはそれぞれの行政担当者が参加しており、情報収集に役立っている。管理者は市の担当者に制度的な相談をしたり、区的生活保護担当者とは利用者の相談などをして連携を密にとっている。</p>		
<p><b>4. 理念を実践するための体制</b></p>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月、請求書と小遣い帳のコピーを送る時に、「あいある石山通信」を同封し、行事や誕生会などの写真を載せて暮らしの様子を報告している。家族の来訪時には本人の状態を報告しているが、最低でも月に1回は電話でも連絡している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>今年、対応や満足度について意見を聞くため、家族に無記名のアンケート調査を郵送で実施した。その結果を会議で話し合い、運営推進会議にも報告している。また、家族の来訪時には話しやすいように対応し、意見などがあった場合は、代表、職員間で内容を共有し運営に反映させている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>グループホームでは馴染みの関係が重要であることを人事委員会の中で話し合い、ここ2年位異動はない。職員の退職を利用者に伝えるかどうかは、利用者のダメージが無いように配慮して決めている。異動がある場合は、職員ができるだけ多く関わるように対応している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人は年間計画を立て、2ヶ月ごとの研修を実施しており、認知症状の理解や対応、介護計画、医療の知識とケアなどを学び、内部研修を充実させている。外部研修では認知症対応の実践者研修や管理者研修など職員の経験年数に応じて参加させ、費用は会社が負担している。参加した職員は会議で報告し内容を共有している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は市、区のグループホーム管理者会議に参加し情報交換をしている。地域包括支援センターが中心になり、計画作成者を対象にした事例検討会を3ヶ月間隔で行っている。検討会にはホームの担当者と職員も参加し、学びの中で他のグループホームとの交流がある。		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に本人・家族の見学を勧め、来られない場合は管理者が病院や施設を訪問して本人と顔見知りになり、見学には一緒に食事をするなどして安心して入居できるように配慮している。入居後は家族に頻繁な来訪をお願いし、職員はできるだけ寄り添いながら徐々に環境に慣れてもらうよう細やかな配慮で対応している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と一緒に作業を行う中で、お膳に載せる食器の配置や漬物のつけ方、煮物の作り方などを教わっている。利用者の苦労話を聞いたり、また職員も困っていることを率直に話し、年長者の知恵で利用者にも元気づけられることもあり、常に共に過ごし、支え合っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者の話をよく聞くこと、最後まできちんと聞くことを対応の基本にし、職員は会話の中で本人の意向を確かめ、介護計画に反映させている。利用者の要望があれば、作業を一時やめても話を聞き、可能な限り沿うように努力している。</p>		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>当初の介護計画作成時にセンター方式によるアセスメントを行い、初期の計画を作成した上で家族等への説明を行い、関係者の意見を反映して正規の介護計画を作成している。作成後の介護計画に家族の同意印をもらっている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は6ヶ月に1度程度で見直しを行い、状態の変化がある場合などは実情に合わせ随時の見直しも行っている。一方、計画を見直す際のモニタリングやカンファレンス内容はあまり記録されておらず、職員の意見などが十分に集約・反映されているとは感じられない。</p>		<p>計画の見直し期間を3ヶ月程度に短縮されるのが望ましい。また、計画見直しの際に話し合われた内容を適切に記録し、意見を集約することで介護計画を一層充実されるよう期待したい。</p>
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>医療連携体制があり、訪問理美容も受け入れている。同一法人の他のグループホームを訪問し共同でレクリエーションを行っている。買い物は複数の利用者の希望がある場合は車で送迎を行っている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p><b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b></p>					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>9割程度の利用者が入居前のかかりつけ医を継続的に利用している。また、提携医療機関による月2回の往診を受けており、非常勤職員として看護師を配置している。通院は家族対応を原則としているが、受診ノートを活用し家族とホームの情報共有を図っている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>「重度化した場合における対応に係る指針および同意書」を作成し、利用開始時に本人および家族と書類を取り交わしているが、まだ看取りの経験はなく、具体的にホームでどの程度まで対応が可能なのかの方針が十分共有されているとはいえない。</p>		<p>重度化した場合や終末期について具体的にホームがどの程度までの対応が可能か、各利用者や家族がどのような希望を持っているかなどを早い段階で話し合い、職員も含めて明確な方針を共有されるよう期待したい。</p>
<p><b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p>					
<p><b>1. その人らしい暮らしの支援</b></p>					
<p>(1)一人ひとりの尊重</p>					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>各職員は利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応をしないよう心掛けており、気になる対応がある場合はその都度管理者が注意・指導している。離れた机で記録を行い、スタッフルームで記録を保管するなど取り扱いに配慮がなされている。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>大まかな1日の流れはあるが、ホームの都合を優先することなく、起床、食事時間、レクリエーション参加など利用者の体調ペースに合わせて過ごしてもらっている。遊びのほかに趣味の道具も提供し、本人の希望に沿って生活が楽しめるように支援している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	用意された献立を基本にしているが、食事検討会議を開催して利用者の視点に立ち、好きなものや敷地内の畑で取れたもの、季節のものなどを楽しめるように工夫している。調理を手伝う利用者が数名おり、後片付けにはさらに多くの利用者が参加している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午後の入浴が中心だが、一人で入浴できる方で夕食後に入浴する方もいる。1人週2回以上概ね曜日を決めて入浴しており、希望者は他の日も入浴できる。入浴拒否もほとんどいない。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	台所仕事以外でも畑仕事や花を育てる、雪かきをするなどの役割を持っている方もいる。書道や編み物、カラオケ、花札遊びなど楽しみごとも豊富である。室内には造花など季節の装飾がなされているが、利用者と職員が作ったものとのことである。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	隣が大きなお寺となっており、毎日のように境内に散歩に出かけている。ショッピングセンターへのドライブや外食も頻繁に行われている。年間行事として花見やよさこい祭り、紅葉狩りなどに出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は夜間のみ鍵をかけている。各ユニットから玄関への戸は、1階は鍵をかけておらず、2階は1名帰宅願望のある利用者のため短時間に限って鍵をかけることがあるが、徐々に解消する方向にある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>年2回避難訓練を実施しており、夜間想定訓練も行っている。また職員の救急救命訓練も毎年行っている。運営推進会議を通じて地域の方に避難訓練への参加を呼びかけているが、まだ実現できていない。</p>		<p>運営推進会議を通じて、災害時における地域とのお互いの助け合いについて話し合い、避難訓練への幅広い参加や連絡網の整備などの充実を期待したい。</p>
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>献立は同一法人のグループホームの栄養士が作成しており、カロリーや栄養バランスなどが調整されている。食事や水分の摂取量を介護日誌に記録しており、不足する場合は調理形態を工夫して補っている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>玄関や廊下、居間など全体的に広く、居間は3面に窓があり庭が見渡せる開放的な造りである。丁寧に作られたカレンダーや造花などの季節の飾り付けが施され、各居室の表札や貼り絵なども美しく落ち着いた雰囲気である。温度・湿度、光や音なども配慮されており気になる点はない。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>各居室はフローリングの床で清潔に保たれており、備え付けのクローゼットがあり利便性を高めている。各利用者の馴染みの家具や生活用品が持ち込まれ、居心地よく過ごせる場所となっている。</p>		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価表（様式1）を添付すること。